

## 平成29年度進路だより就職編 第2号

種子島高校進路指導部 就職指導係 徳永丈知

### 1 できる自分を想像する

私が種子島に転勤してから毎年行っていることがあります。それは自転車で種子島を周ることです。実行するとなると、走行距離が長いために少々覚悟が必要となっていきます。

その理由は、通称ママチャリで種子島を周るからです。総重量20kgの自転車で坂の多い種子島を周ることは普通の人には考えられないことだと思います。しかし、私にとっては、だれも挑戦しないようなことに挑戦することは貴重な時間であり、今年もその時を迎えるました。

私は、公共の交通機関が発達していない大隅の田舎で育ったために、小学生の時から移動手段として自転車をよく利用していました。また中、高校生の時にも、毎日自転車通学をしていましたために、自転車は生活になくてはならないものでした。そのために、涼しくなって来たこの季節になると、ついで遠出をしたくなってしまいます。

出発当日は、まずは天気を確認し、天候にあわせて飲み物、食料、着替えを足早にリュックに詰め込みます。いよいよスタート。ゴールは言うまでもなく夕方までにこの場所に戻ってくることです。信じることができるのは、自己の体力と気力のみです。

経路は種子島高校前をスタートし、国上を目指して北上します。最初は、足取りは軽く、心地よい海風を感じながら、軽快に自転車を走らせます。どこからともなく漂ってくる潮の香りとさざ波の音が浮き立った心に安らぎを与えてくれます。そんな時間もつかの間、すぐに登り坂を迎えます。

ともかくゴールを急いでいる私にとって、坂道で降りてゆっくりと自転車を押している余裕などありません。時間短縮のためには、坂を駆け上がるしかないので。その坂に向かって自分の気持ちを奮い立たせながら、腰を振りながらペダルをこいでいきます。そのような中、自動車が私の横を簡単に追い抜いていきます。そして車に乗っている人は、何をしているのだろうかという目で私を見ていきます。45歳を超えた大人が、なり振り構わず自転車をこいでいる姿は、見ている人にとっては理解し難いかもしれません。しかし、人の目など気にすることなく、ただひたすらに自転車を走らせます。疲れたからといって自転車を止めて休憩する時間すら惜しいので、水分補給や補食は極力自転車に乗ったまま行います。喜志鹿崎灯台に到着。ほっと一息入れ、灯台まで下ってきた道のりをまた登っていきます。そこから東海岸を南下し、伊関、安納、安城、立山、増田を目指します。今日は、東海岸は波があり、風を正面で受けてしまいます。向かい風と照りつける日差しは、私の体力を消耗させ、時間だけが過ぎていきます。明らかに昨年度のペースよりも時間がかかりっています。意識がもうろうとしながら、幾多の坂を乗り越えます。

そんな中、サイクリング中に必ず立ち寄る場所があります。それは立山小学校跡です。皆さんもご存じのように平成27年3月立山小学校は休校を迎えました。私は種子島高校の代表として、たまたま卒業式と休校式に参加する機会がありました。これまで何の関係もない学校でしたが、わずかな時間に地域の方々と一緒に休校式を迎えた時の寂しさが、これまで生きてきた私に大きな影響を及ぼしました。そのことがきっかけで、毎年立山小学校には自転車で訪問しています。6月に自転車で訪問した際にも、学校が綺麗に整備され、

地域の方々が学校を守っている姿が見られました。そのたびに心の中でほっとしています。どことなく私が通ってきた母校と重なるところがあるためか、ここに来ると心の故郷に戻ったような気がしてなりません。

その後は、増田の坂を乗り越え、中種子を目指します。この時点で昨年度よりも1時間以上、余計に時間がかかっています。これから、昨年同様に油久小学校前を超えてロケットセンターまで南下するのか、それとも西之表を目指して方向転換するか葛藤の連続でした。最終的には、予定を断念し、空港前を通り、古田を経由してゴールにたどり着きました。走った距離は約100km、坂道では一度も足を着くことなく、8時間近く自転車をこぎ続けました。私がなぜこのようなきついことを続けるかというと、私には大きな目標があるからです。それはいつの日か自転車で日本一周をしようと決めているからなのです。のために今のうちから少しづつトレーニングを積んでいるのです。まずは種子島一周、次に鹿児島・九州一周と段階的に力を試していき、最終的な目標達成を目指しています。

さて、3年生の中には、就職試験も終わりすでに内定をもらっている皆さんが増えました。皆さんの中には、ほっとして、これから高校生活を楽しく過ごしていこうと考えているかも知れません。しかしそく考えて見てください。大切なことは、社会に出たときにどのように生きていくのかということです。就職を決定することは、ゴールではなく新たなスタートなのです。自ら新たな目標を定め、進んでいくことが求められます。私たちは、だれかに何かを評価してもらうために生きているではありません。自分の魅力を見つけ出すために生きているのだと私は考えています。自分で様々なことに挑戦することで新しい発見や感動が出てきます。そのことが相乗効果となり、新しい生き方を自分で模索できるようになると思います。できない自分を想像するより、できる自分を想像することが挑戦への一步です。

## 2 生き方を評価

残念なことに就職試験において、第一希望の受験で不合格になった生徒がいました。大切なことは、結果をしっかりと分析し、次の試験に活かすということだと思います。いつもでもその場にとどまっていても、何も解決しません。是非、進路室に自ら足を運び、情報を得るようにしてみてください。実はそんな皆さんの行動そのものが、就職試験の際の意気込みにつながっていくような気がしてなりません。進路を決定を通して、人としてどれだけ成長したのかということが見られているのではないでしょうか。1・2年生の皆さん、就職試験は受験すれば全員合格するわけではありません。生き方を再度見直そう。

## 3 心に余裕を

携帯電話は便利なものです。そのために携帯所持率も随分高くなっています。本校では、毎年携帯時間の使用時間調査をしていますが、使用時間が年々増加しています。実際に校外で使用している皆さんを多く目にするようになりました。携帯は使い方次第ですが、携帯に追われる生活ではなく、携帯から手を離して、外に出て星を眺める心の余裕があつてほしいものです。もしかすると、あなたの悩みも少しほ薄れるかもしれません。

## 4 地域の宝に感謝

本来、花は咲きませんが、高温乾燥ぎみの年に栄養生長が充分に行われず、薄紫色のアサガオに似た小さな花を咲かせる植物は、サツマイモです。花を見るとサツマイモが、アサガオと同じ仲間のヒルガオ科の植物であることがわかります。今年、花の咲いたサツマイモを目にしました。安納芋は、花が咲きやすからこそ、改良が進み、よりよい品種ができたと思われます。安納芋の恩恵に感謝しながら、今年も美味しいいただいております。